

ブドウの産地形成にかかる

個選共販体制の整備と出荷規格に応じた生産の実践

対象者 甲賀地域ぶどう栽培研究会

【普及活動のねらい】

甲賀地域ぶどう栽培研究会は平成 27 年に設立され、現在では 19 戸の農家が参画しています。生産されたブドウの多くは直売所に出荷されており、まだ未成園の農家も多いことから、直売所へのお荷の増加が見込まれ、農家からも今後の売り先への不安が挙がっていました。このため、昨年度から地元量販店へのお荷に取り組みましたが、昨年度は量販店へのお荷農家は 6 戸にとどまりました。また、現在管内で問題となっている着色不良が原因で計画よりもお荷量が少なくなっている農家もいました。そこで当センターでは、量販店お荷を推進するとともに、着色不良の改善に向けた栽培管理技術の習得支援を行いました。

【普及活動の内容】

量販店お荷への呼びかけについては、近年の直売所の販売状況をデータで示し、今後直売所のブドウ販売がひっ迫してくることを周知することで、量販店へのお荷誘導を行いました。また、収穫 2 か月前には量販店へのお荷意向アンケートを実施し、お荷を希望する農家の把握を行いました。アンケート結果から、量販店にお荷しない農家については、量販店お荷の仕組みへの理解が十分でないことが主な要因であることが判明しました。そこで、量販店へのお荷開始前に JA と連携して説明会を開催し、お荷に対する不安や疑問点を解消できるよう支援しました。

着色不良改善に向けた取組については、研修会で着色のメカニズムや課題となっている過着果の抑制やブドウ棚の光環境の整備、他地域の着色促進技術の紹介を行いました。研修後には巡回指導を行い、研修会で紹介した内容について改めて説明しながら、各園地に合わせた着色向上技術を指導しました。



着色改善の取組について研修会で共有

【普及活動の成果】

上記の活動の結果、今年度の量販店お荷農家は目標 10 戸には届かなかったものの、昨年度から 2 戸増加の 8 戸でお荷となり、参画した農家には量販店お荷のメリットへの理解も進み、次年度以降も続けたいとの声も聞かれました。着色向上の取組についても、各農家が着色向上に向けた管理を励行したことにより、赤系の秀品率が大幅に改善されました。主要農家 4 戸に対する秀品率の調査では昨年度 72% に対し、今年度は 79% と目標の 80% に近づき、農家によっては 90% 以上の秀品率を達成することができました。

◎対象者の意見

新たな販路として量販店ができたのは販売への心配が減り、とても助かっている。果実の着色不良についても、昨年よりも高い秀品率を記録した。次年度以降も引き続き支援をお願いしたい。(甲賀地域ぶどう栽培研究会 N 氏)